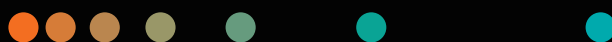


**演題 1: 検体検査の効率化が拓く
臨床検査技師の診療参画
—限られたリソースで
最大の効果を生む取り組み—**

**演題 2: 変化の時代に対応し続ける
新検査室構築とその導入効果**



www.siemens-healthineers.com/jp



日本医療検査科学会第57回大会 ランチョンセミナー14

日 時：**10**月**4**日(土) 12:00～12:50

会 場：第7会場(304号室)

座 長：小飼 貴彦 先生

(獨協医科大学 同大学病院臨床検査センター 教授)

演者 1：濱田 佐智子 先生

(医療法人岡村会 岡村病院 臨床検査室 技師長)

演者 2：松田 治恵子 先生

(医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院 臨床検査科 技師長)

本ランチョンセミナーは整理券制となっております。

9月1日～9月12日の間に事前参加登録をすると、登録時にランチョンセミナーの整理券事前予約がおこなえます。

事前申し込み後の残数につきましては、会期当日の朝に配布を行います。

整理券及び当日の配布スタッフは、日本医療検査科学会第57回大会にて、対応させていただきます。

詳細は日本医療検査科学会第57回大会のホームページをご確認ください

※整理券の予約・配布はいずれも無くなり次第、終了とさせていただきます。

共催：日本医療検査科学会第57回大会

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社



一般社団法人

日本医療検査科学会

The Japan Association for Clinical Laboratory Science

SIEMENS
Healthineers

演題1：検体検査の効率化が拓く臨床検査技師の診療参画 —限られたリソースで最大の効果を生む取り組み—

演題2：変化の時代に対応し続ける新検査室構築と その導入効果

演者1：濱田 佐智子 先生

(医療法人岡村会 岡村病院 臨床検査室 技師長)

演者2：松田 治恵子 先生

(医療法人徳洲会 八尾徳洲会総合病院 臨床検査科 技師長)

セミナー概要

1. 岡村病院は「高度な技術をもって地域社会に貢献する」を基本理念に、内科、外科、心臓血管外科など14診療科を有している。特に下肢血管治療ではAct Against Amputation (AAA) をモットーに多職種連携で「救足センター」を発足し、チームで治療にあたっている。臨床検査技師も参画し、ABI検査、皮膚灌流圧検査、超音波検査、カテ室でのエコーガイドなど多岐に渡る生理検査を担っている。当時検査室には6名の検査技師が所属し、そのうち5名を生理学的検査に配置する必要があり、機器更新に際して検体検査の効率化は必要不可欠な要素であった。2024年11月、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社製の生化学免疫自動分析装置「Atellica CI1900」を導入し、業務の省力化とメンテナンス負担の軽減を実現した。これにより、従来からの体制をさらに盤石なものとし、検査技師が専門検査や診療参画に注力できる環境が整った。本演題では検査室の取り組みと、多職種連携の未来展望を紹介いただく。

2. 八尾徳洲会総合病院は、24時間の救急医療、高度先進医療、在宅医療、予防医療など、多機能的な医療を実践し、大阪東部地区の約100万人を支える基幹病院として地域医療の重要な役割を担っている。2025年度の採血室拡張計画に伴った検査室移設時に、機器の更新に合わせて新検査室の構築を行った。改革の目的は、誰が担当しても臨床に均一な検査結果を提供できる環境を整備し、TAT (Turn Around Time) の平準化を図り、技師が専門スキルを活かせる検査室を構築する事にある。今回の改革では、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社製の生化学・免疫分析装置「Atellica Solution」、検体搬送処理システム「Aptio Automation」、工程管理システム「Atellica Process Manager」を導入した。さらに、日本初導入となる搬送システムとエアシューターおよび外来採血室からの検体輸送コンベア連携も実現した。本演題では、新検査室構築に至るまでの検討課題、新システムの導入効果、そして今後の展望について紹介いただく。